

キーワードから

検証・浅野県政

③

浅野史郎知事は日ごろから、自らの本籍地を「障害福祉」と公言している。

根をなくし、同じように社会で生活できるようにする「ノーマライゼーション」

計画された「保健医療福祉中核施設」の建設事業を白紙撤回する。
02年には、知的障害者の福祉施設「船形コロニー」(大和町)の解体を決定。宣言前には436人いた入所者のうち、1

脱施設

理念先行に戸惑いも

原点は、旧厚生省の官僚だった85年、北海道への出向だ。福祉課長として障害者福祉の仕事に初めて経験する。87年に厚生省へ戻ると、障害福祉課長に就く。現場を歩き、人々と出会う中でライフワークと思い定めるようになった。

知事になって約10年後の04年2月、浅野氏は知的障害者人所施設の「施設解体宣言」を発表した。障害者と健常者の垣

「ヨーン」の実践だ。

伏線があった。浅野氏は、まず右腕を呼び寄せた。長崎県で社会福祉法人を運営する田島良昭氏

を96年、県福祉事業団の副理事長に迎えた。

右腕を得た浅野氏は、前知事時代に三本木町で

00人以上が施設を離れた。今年2月には就労支援施設「船形学園」が閉園した。施設解体の第一号だ。

福祉現場には、理念先行で矢継ぎ早に打ち出される施策に、戸惑いもある。船形コロニーの入所

者の約3分の2は仙台市出身。ところが、受け皿となるグループホームは

現在、市内に56カ所しかない。市には「全員の受け入れは無理。負担の押しつけた」と不満がくさぶる。

わけではない。実現は百年後。しかし、いま宣言しないと300年かかる。浅野知事は福祉関係者を集め、「宣言」の真意をこう説明した。

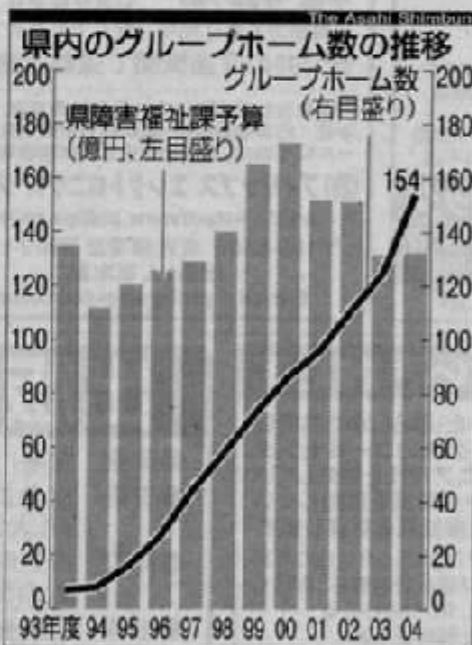
宣言の具現化には、サポートなどのため時間もカネもかかる。福祉関係

者は「財政が厳しい中で、新知事が浅野氏の福祉政策を踏襲するだろうか」と不安視する。

宮城には、福祉の「王国」があるように見える。浅野氏は右腕の田島氏を副知事に任命しようとしたが、議会の反対で失敗した。だが、田島氏は今、県の福祉関係3団体が統合した新生「県社会福祉協議会」の副会長として、福祉界にらみをかす。

浅野氏は前言を撤回し、後継者を事実上指名した。そこに浅野氏らしい「潔さ」は感じられない。変節の背景には、福祉王国の崩壊に対する恐れが、透けて見えなくもない。

(小泉浩樹)



宮城